

# まちのくすりやさん 第44号

## 今回のおはなし

「花粉症」

ザ・タバコ

Q&A



### 花粉症の薬を飲んでいる方へ

### 相互作用にご注意を！！

ポララミン、ペリアクチン  
(抗ヒスタミン薬)

+ [胃薬]

抗ヒスタミン薬は、抗コリン作用を有するため、ロートエキスや鎮痙成分を含む胃薬（OTC薬の例：キャベジンコーワ錠、パンシロンG、ブスコパンA錠など）と併用すると、口が渇く、尿が出にくい、便秘などの抗コリン作用を増強することがあります。

エバステル、クラリチン、オノン  
(抗アレルギー薬)

+ [薬の排泄に関する  
CYP3A4を  
阻害する薬剤]

CYP3A4を阻害する薬剤（エリストマイシン、クラリスロマイシン、シメチジン、テオフィリン、イトラコナゾール、フルコナゾール、グレープフルーツ等）と併用すると、抗アレルギー薬の代謝が阻害され、作用や副作用が強くなる可能性があります。

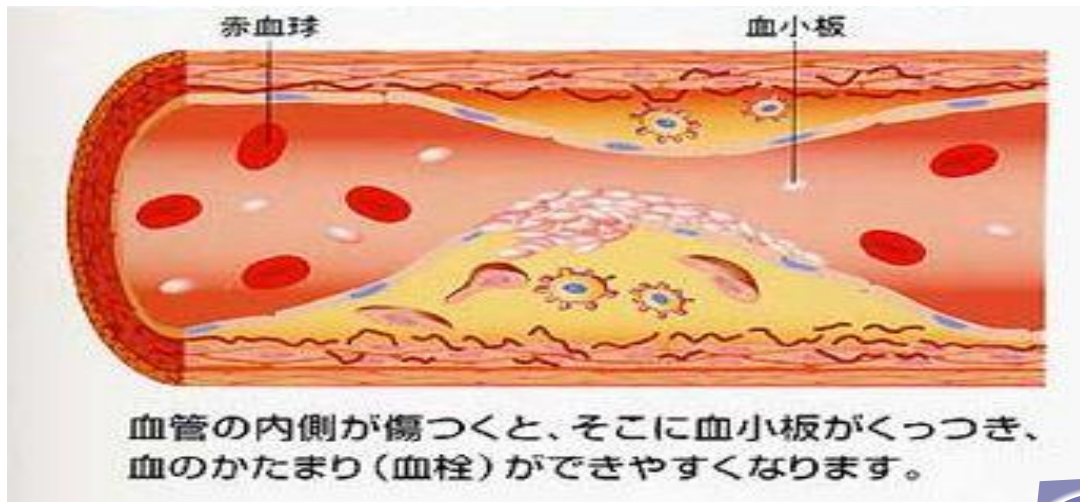
他に、セルテクト、ザジテン、ポララミン、ペリアクチンなど、これらの薬を服用中にお酒を飲むと、中枢抑制作用が増強し、副作用である眠気などが起こりやすくなります。

医師は薬の相互作用について十分配慮して処方を決めています。しかし、他の病院や診療所にもかかり、別々に薬を処方してもらっている時やOTC薬を買って飲んでいる時は、医師や薬剤師にそのことを伝えるようにしましょう！

# ガ・タバコ

## タバコの怖さ・・・一酸化炭素

一酸化炭素は、血管を内側から傷つけ詰まりやすくします。これを動脈硬化といって、心臓病や脳卒中を引き起こすこわい病気です。



### ビタミン剤について

ビタミンと一口に言っても、その種類は水溶性のものと脂溶性のものに分類されます。ビタミンB群、ビタミンCなどの水溶性のビタミンは、多く服用しても摂りすぎた分は、尿の中へ排泄されます。しかし、ビタミンCなどを過量にとると、下痢などの副作用が知られています。一方、脂溶性のビタミンは、体内に蓄積されやすく、時として過剰症が起こります。脂溶性のビタミンには、ビタミンA、D、E、Kがあり、ビタミンE以外の過剰症では、食欲不振、悪心、頭痛などを起こすといわれています。ビタミンと言えば元気のもとと、摂取すればするほど体にいいと思っている人は、注意しましょう。



※1面及びビタミンについて：日本医療企画「知っておこう！薬の飲み合わせ」より抜粋

(社) 浦安市薬剤師会 〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内  
Tel 047-355-6812 (月～金：10～15時)  
Fax 047-355-6810  
メールアドレス [toiawase@urayaku.jp](mailto:toiawase@urayaku.jp)  
ホームページ <http://www.urayaku.jp/>